

タイム・オブ・ミュージックTime of Musicに参加して

小林 聡

Kobayashi, Akira

はじめに

筆者は、今年（1996年）の4月から9月にかけて、文部省在外研究員としてフィンランドに滞在し、フィンランド国立シベリウスアカデミーに籍を置きながら、フィンランドの現代音楽についての調査・研究を行った。筆者の研究過程で最も印象深かったのは、フィンランド・フェスティヴァルズの一貫として行われている現代音楽祭、タイム・オブ・ミュージックTime of Musicに参加し、フィンランドの作曲家や演奏家ばかりでなく、ヨーロッパやアメリカから来た芸術家達に接したことである。タイム・オブ・ミュージックでの経験を振り返ってみたいと思う。

1. タイム・オブ・ミュージックTime of Musicの概要

1. タイム・オブ・ミュージック参加した経緯について

フィンランドで毎年多くの音楽祭が催され、現代音楽も積極的に演奏されていることは知っていたが、タイム・オブ・ミュージックについては、シベリウス・アカデミー作曲科のパーヴォ・ヘイニネンPaavo Heininen¹教授から聞くまでは何も知らなかった。教授から、大変興味深いイベントであるからぜひ参加するようにと勧められ、フィニッシュ・ミュージック・インフォメーション・センターFinnish Music Information Centre²に行き資料を調べてみた。フィンランド・フェスティヴァルズFinland Festivalsのブックレットのなかに1ページの案内があり、フィンランド語で書かれたパンフレットを見つけた。後になって気付いたことであるが、ガウデムス・インフォメーションGudemaus Information³の1996年7月号には詳しいプログラムが載っていた。

2. フィンランド・フェスティヴァルズFinland Festivals

フィンランドでは、毎年、フィンランド・フェスティヴァルズFinland Festivalsと呼ばれる一連の文化的なイベントが催される。1968年にフィンランド・フェスティヴァルズ協会が発足された時に加盟していたフェスティヴァルはたったの8団体であったが、現在では50以上の団体が加盟し、年間を通して、文化的なイベントを行っている。毎年の参加者の総数は100万人を超えている。

フィンランド・フェスティヴァルのゼネラル・マネージャーのトゥオモ・ティルコネン Tuomo Tirkkonenは、今年度のパンフレットの中で次のように述べている。

フィンランド・フェスティヴァルズのイベントはわが国の魅力の中心的な要素です。フィンランド・フェスティヴァルズは膨大な数にのぼる一流のコンサート、映画、ダンス、演劇の上演、カートゥーン、文芸作品、子供たちの芸術、民族芸能等を提供します。特に夏期のフィンランドをフェスティヴァルを見ないで旅行するのは難しいと思います。フィンランド・フェスティヴァルズのイベントの中に自分たちのお気に入りのものを見つける人達はたくさんいます。

皆さんは、我々のフェスティヴァルズに、飛行機、列車、船等でお越しいただけますが、あなたの運転でご家族一緒にお越しいただければ大変嬉しく思います。

このパンフレットにはフィンランド・フェスティヴァルズのあらましが載っています。もっと詳しい情報は、各々のフェスティヴァルや私達の事務所で提供致します。私達はいつもフィンランド語、スウェーデン語、ドイツ語や他の言語で皆さんのお手伝いを致します。また、インターネット・サービスも行っております。

私達はフィンランドで皆さんをお待ちしています。フィンランド・フェスティヴァルズは皆さんに満足していただけるものと信じています。

3. タイム・オブ・ミュージックTime of Musicの開催地について

タイム・オブ・ミュージックTime of MusicはヴィータサーリViitasaariという、地理的にはほとんどフィンランドの中央部にある、人口9,000人ほどの小さな街で行われる。ヴィータサーリには、ヘルシンキHelsinkiからユヴァスキュラJyväskyläまで特急列車に4時間弱乗り、そこから特急バスに2時間ほど乗ると到着する。ヘルシンキの近郊を過ぎると森と湖の景色が続き、フィンランドが「森と湖の国」であることを実感させられる。ヴィータサーリは湖に面した美しく、静かな街である。

タイム・オブ・ミュージックは夏休み中の中学校の施設、街にあるいくつかの教会、ホ

テル・ピフクリHotel Pihkuriで行われる。ホテル・ピフクリは街の中にあるたった一件のホテルであり、フェスティバルの期間中満員になってしまうため、参加者達はタイム・オブ・ミュージックの事務所を通して中学校の空いている教員宿舎に宿泊することができる。料金は1泊120マルカ（約¥2,000）である。私もこの教員宿舎に滞在した。

4. タイム・オブ・ミュージックの歴史

現在ではタイム・オブ・ミュージックとして知られている、ヴィータサーリ・ミュージック・アカデミーViitasaari Music Academyは、1982年に始められた³⁾。タイム・オブ・ミュージックの創設者達の中でもとりわけユッカ・ティエンスウJuuka Tiensuu⁴⁾は、クラシック音楽が音楽界を支配し、現代音楽を演奏し広めることが困難な状況に不満を感じていた⁵⁾。

現代音楽の知識人達は、タイム・オブ・ミュージックを出来る限り素晴らしいものにしたと考え、ジョン・ケージJhon Cageを1983年のフェスティバルに招待した⁶⁾。それ以後、タイム・オブ・ミュージックにはヤニス・クセナキスIannis Xenakisが1986年にジョージ・クラムGeorge Crumbが1991年に招待されている。1982年にタイム・オブ・ミュージックが始められてから今日までに、約1,200作品が演奏され、そのうちの約700作品はフィンランド初演で、100作品は世界初演である⁷⁾。

II. 今年のタイム・オブ・ミュージックについて

1. 今年のスケジュールについて

今年のタイム・オブ・ミュージックは、7月4日(木)から7月9日(火)の6日間に、15回の現代音楽のコンサートが行われた。主な招待作曲家・招待演奏家とサブ・タイトルは以下のとおりである。

Ensemble Aleph - from the cellar of the poet

Kromata - the strikers in the ring

Kaapeli - a quartet from the shadows of a fastory

Maurizio Barbetti - viola noblesse

Philip Mead - ebony and ivory

John king with a guitar elecronically

Adriana Hölszky whirlwinds and suspension bridges

Stephen Montague on the road

又、この期間に5回のポピュラー音楽のコンサートがホテル・ピフクリのレストランで、4回のイベントがホテル・ピフクリの庭で行われた。出演者は以下のとおりである。

Eero Ojasen trio

Jatkoroikka

In Time Quintet

How many Sisters

Kirmo Lintisen Trio

Loop Treatment

Ismo Alanko

Vapaat Soittajat

Serpentti-puhallinyhtye

コンサートのほかに、各種のコースが行われた。コース科目・講師陣は下記のとおりである。

作曲 Juuka Tiensu

即興 John King

ヴィオラ Maurizio Barbetti

フルート Mikael Helasvuo

コンピューター・ミュージック Otto Romanowski

コンピュータライズドゥ・ノーテーション Kai Nieminen

ダンス Virpi Pahkinen

2. 筆者の参加したプログラムについて

今回のタイム・オブ・ミュージックにおいて、筆者は7月6日(土)から7月10日(水)まで、ヴィータサーリに滞在し、以下のコンサート・イベント・コース等に参加した。

7月6日(土)

4:00 p.m.～ Chapel

Fragments & Seguments

7:00 p.m.～ Theatre

Arrêts fréquents

7月7日(日)

11:00 a.m.～ Course center
Composition Lecture Adriana Hölszky
2:00 p.m.～ chapel
Furies and Elegies
4:00 p.m.～ Parish hall
Some spinters, One Boudier
7:00 p.m.～ Church
De profundis..
11:00 p.m.～ Hotel pihkuri
In time Quintet

7月8日(月)

11:00 a.m.～ Course center
Composition Lecture Maurizio Barbetti
5:00 p.m.～ Theatre
Crimes and Dreams
7:00 p.m.～ School center
Contrasts
10:00 p.m.～ Theatre

7月9日(火)

11:00 a.m.～ Course center
Composition Lecture Mikael Helasvuo
3:00 p.m.～ Chapel
Strange matter
5:00 p.m.～ Cafeteria (雨天のためOpen airを変更)
Market and Mind
7:00 p.m.～ School center
Conclusion

短期間にこれだけ多くの行事に参加することは、毎日音楽づけになってしまい退屈してしまうことにもなりかねないが、どのプログラムも非常に新鮮で興味深いものであった。これらのプログラムの中でも、現代音楽を研究している筆者にとっては、ユッカ・ティエンスウの作曲のコースが印象深いものであった。彼の作曲のコースは毎日ゲストのレクチャーを交えながら行われたが、特に7月7日(日)のコースは圧巻であった。この日のゲストは、イタリア人ヴィオラ・プレイヤーのマウリツィオ・バーベッティ Maurizio Barbettiで、このほかにイギリス人作曲家のステファン・モンタグ Stephen Montagu、ドイツ人作曲家のアドリアナ・ホルスキュー Adriana Hölszky等の招待作曲家も参加した。マウリツィオ・バーベッティがヴィオラの現代奏法を1時間ほどレクチャーした後、音楽観・作曲家論・演奏家論等について熱い論議が繰り広げられた。この日の講義の模様を振り返ってみたい。

ステファン・モンタグ：「あなたは今までに見ず知らずの作曲家から送られてきた曲を演奏したことはあるの？」

マウリツィオ・バーベッティ：「興味があれば、演奏するよ。」

モンタグ：「わたしは、あなたが今までに見ず知らずの作曲家から送られてきた曲を演奏したことがあるのかどうか聞きたい。」

バーベッティ：「多分、すると思うよ。」

モンタグ：「例えば、フィリップ・ミードゥ Philip Mead[®]には毎週16～18曲の作品が送られてきている『フィリップ・ミードゥ様、この作品を世界中で演奏してください』というように。彼はそれらを皆ごみ箱に捨てている。あなたならどうする？今までに、あなたほどタイム・オブ・ミュージックのレクチャーに時間をかけてくれた人はいない。だからこそ、あなたに聞きたい。」

バーベッティ：「私の好きな曲なら、演奏するよ。」

モンタグ：「ロマンティックな曲が好きなの？」

バーベッティ：「ロマンティックな曲は好きじゃないね。」

モンタグ：「あなたは本当にイタリア人なのか？(笑)」

バーベッティ：「勿論さ。」

モンタグ：「あなたは本当に、気に入った曲なら見ず知らずの人の作品でも演奏するの？」

私は、今まで演奏家からコンチェルトを演奏するから送って欲しいと言われ送っているがいつも梨の磔だ。」

ユッカ・ティエンスウ：「私もそうだ。」

モンタグ：「とにかく、私達作曲家にチャンスを与えて欲しい。」

バーベッティ：「ここで私はあなた方作曲家に聞きたい。あなた方はどんな楽器が好きな
の？何か特定の楽器？（受講者に）」

受講者：「難しい質問だ……。」

ティエンスウ：「作曲家は演奏家によって触発され曲を書くものだ。これは音楽史をみれば明らかである。」

モンタグ：「あなたはプログラミングをするときに、聴衆を集めようとするか。」

バーベッティ：「自分の好きな曲を演奏するだけさ。」

モンタグ：「作曲家はどう考える？ユッカ。」

ティエンスウ：「私は特定の聴衆のためのプログラムをかんがえたことはない。フィンランドの人口は5,000,000人だが、音楽会に集まるのはたったの1,000人だ。残りの4,999,000人は音楽会に来ていないわけだ。結局、音楽会に来るかこないかは聴衆が決めればいいことだ。」

おわりに

今回のタイム・オブ・ミュージックに参加したことは、先にも述べたように筆者にとって非常に得難い、素晴らしい経験であった。ヴィータサーリの美しい自然を満喫できただけでも十分であるが、なにより嬉しく思えるのはこの音楽祭に大変家族的な雰囲気を感じられることである。参加者全員が音楽をとおして一体になっているのである。招待芸術家・スタッフ・聴衆・受講生・街の人達、音楽祭に集まった人達が皆本当に親切で、誰とでも親交を深めることが出来る。国際的な桝舞台に立っている芸術家も例外ではない。フルーティストのミカエル・ヘラスヴォMikael Helasvuoは、教会に歩いて行く筆者を見て車を止めてくれた。ヴィオラ・プレイヤーのマウリツィオ・バーベッティは、作品を送って欲しいと励ましてくれた。作曲家のアドリアナ・ホルスキーはヴィータサーリからヘルシンキまでの帰り道、彼女の音楽観を聞かせてくれた。ヴィータサーリで受けた親切は数え切れない。この家族的な雰囲気もスタッフの努力に支えられていると思う。例えば、コンサートで出演者一人一人にスタッフから可愛らしい花束が送られる。これらの花束は、スタッフが近くの草原で花を摘み作ったものである。筆者もスタッフにはどれほど助けていただいたか分らない。朝から夜遅くまで働き詰めなのにもかかわらず、土砂降りの雨のなかを傘もささずに宿泊場所まで案内してくれたり、フィンランド語のレッスンまでしてくれたスタッフの方々には本当に頭が下がる。

最終日の夜10時からホテル・ピフクリで打ち上げパーティーが行われた。このパーティー

のチケットは30マルカ（約¥700）で、誰でも参加出来る。いつもTシャツとジーンズで忙しく動き回っていた女性スタッフ達がこのときはイヴニング・ドレスで正装していて、とても美しく、微笑ましい。彼女達の勧めてくれたシャンペンが美味しく、ビュッフェ料理も美味しかった。

今回のタイム・オブ・ミュージックに参加したことは、大変有意義な経験であった。この音楽祭で多くの現代芸術に接し、参加した人達の暖かい心情に触れ、多くの知己を得たことは忘れられない。

-
- i フィンランドの作曲家、ピアニスト、教育者。1938～ 交響曲2曲、ピアノ協奏曲3曲の他、多くの作品がある。
 - ii Lauttasaarentie 1 FIN-00200 Helsinki Finland Telfax+358-9-682-0770
Tel. +358-9-68101316 20,000以上の作品を所蔵し、利用者は未出版の作品を手に入れることも出来る。スタッフの対応は親切で迅速である。
 - iii Kaija and Markku Valkonen, *Festival Fever Finland Festivals*, translated by Yhtä juhlaa (Helsinki, Otava Publishing Company Limited, 1994), p.85
 - iv フィンランドの作曲家、ハーブシコード奏者。1948～ シベリウス・アカデミーでパーヴォ・ヘイネンに作曲を師事。代表作にMXPKZL、Puro等がある。
 - v Kaija and Markku Valkonenn, *op.cit.*, p.16
 - vi *ibid.*
 - vii 今年のリーフレット。
 - viii イギリスのピアニスト。1947～



演奏中のMaurizio Barbetti（ヴィオラ）と
Jukka Tiensuu（ピアノ）



演奏中のMikael Helasvuon（フルート）



花束を作るスタッフ達